

## 名古屋大学模擬授業を実施しました。

12月5日（土）、2年生希望者を対象に名古屋大学模擬授業を実施しました。昨年度は名古屋大学で実施しましたが、今年度は新型コロナウィルス対策により名古屋大学構内で実施できないため、本校で実施しました。

午前は宇宙地球環境研究所 年代測定研究部の小田寛貴先生に『大学進学のため、高校時代に「どのように学ぶ」べきか』というテーマで、午後は大学院情報学研究科 心理・認知科学専攻の大平英樹先生（本校 S55.3 卒）に『私たちを動かす感情のメカニズム』というテーマで講義をしていただきました。生徒たちは皆、講義を熱心に受けていました。それぞれが進路、勉強方法などについて改めて考える契機となりました。

### <生徒の感想>

「今日の模擬授業では、今まで自分が知らなかったことや全く新しい分野について、とても多くのことを学ぶことができました。特に古文書の話では、炭素年代測定法については教科書に載っていたので何となく知っていたのですが、化学の力を使って汚れを落とすことや、数学の微積分を使うことなどは、初めて知りました。古文書や土器などの歴史的なものを理学的な目で見るのがこんなにも面白いなんて知りませんでした。惹き込まれる授業でとっても楽しく、本当に感動しました。」

「心理学が脳科学の世界と通じていることを知り、文系からでも心理学という方面から医学に携わることかできるということに驚きました。元々医療の分野にも興味があったのですが、文系からでは医療に関わることもほとんどないと思っていたので、新しい発見ができました。」

「現在のコロナ禍の人々は外の集団に嫌悪を向けて、自己の安定を図るのだと分かりました。最後に日本人とアメリカ人の同調圧力の大きさの違いについて質問した時も、とても分かりやすく丁寧にお答えしていただけて、より深い学びを得ることが出来ました。」

「コロナと心理についても日本的な同調圧力の強さから起こっている社会問題は、一種 SNS の発達とともに日本の国民性の大きな変革期を招いているという考えに興味をもちました。行動システム理論ははじめて聞いたのですが、とても納得しやすい内容でした。」

「古文書の鑑定や原発、原子力に関する正しい知識や、それらに必要な知識は決して1つの方面の知識ではなく、多方面の知識の融合であるということを知ることができてとても面白かったです。俗に呼ばれる、「個性的」や「型破り」である物事は元々の共通認識、今までに調べられ知られてきたことを知っていてそこからやっと作り出せるものなのだということがとても頭に残っています。これからの人生での研究への基礎を固めることができるように高校ではその土台作りである勉学に勤しまなければならないと感じました。」

